

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・%）					都道府県税の状況（単位 千円・%）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	91,041,389	18.6	79,750,630	35.9	普通税	91,020,783	100.0	549,157	
地方譲与税	12,022,008	2.5	12,022,008	5.4	法定普通税	90,005,133	98.9	549,157	
地方揮発油譲与税	1,868,355	0.4	1,868,355	0.8	道府県民税	30,487,014	33.5	549,157	
地方道路譲与税	8	0.0	8	0.0	個人均等割	402,313	0.4	-	
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	23,565,869	25.9	-	
石油ガス譲与税	126,292	0.0	126,292	0.1	法人均等割	1,057,492	1.2	-	
航空機燃料譲与税	122	0.0	122	0.0	法人税割	4,171,529	4.6	549,157	
地方法人特別譲与税	10,027,231	2.0	10,027,231	4.5	利子割	855,222	0.9	-	
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	配当割	348,897	0.4	-	
地方特例交付金	947,726	0.2	947,726	0.4	株式等譲渡所得割	85,692	0.1	-	
児童手当及び子ども手当特例交付金	656,391	0.1	656,391	0.3	事業税	17,656,490	19.4	-	
減収補填特例交付金	291,335	0.1	291,335	0.1	個人分	711,623	0.8	-	
地方交付税	132,291,331	27.0	128,191,470	57.7	法人分	16,944,867	18.6	-	
普通交付税	128,191,470	26.2	128,191,470	57.7	地方消費税	15,943,823	17.5	-	
特別交付税	4,072,204	0.8	-	-	不動産取得税	1,896,419	2.1	-	
震災復興特別交付税	27,657	0.0	-	-	道府県たばこ税	1,809,169	2.0	-	
（一般財源計）	236,302,454	48.2	220,911,834	99.4	ゴルフ場利用税	290,145	0.3	-	
交通安全対策特別交付金	284,896	0.1	284,896	0.1	自動車取得税	1,265,292	1.4	-	
分担金・負担金	3,432,375	0.7	-	-	軽油引取税	8,203,835	9.0	-	
使用料	2,322,951	0.5	904,568	0.4	自動車税	12,450,005	13.7	-	
手数料	1,420,412	0.3	-	-	鉱区税	2,941	0.0	-	
国庫支出金	74,690,680	15.2	-	-	固定資産税特例	-	-	-	
国有提供交付金	-	-	-	-	法定外普通税	1,015,650	1.1	-	
財産収入	996,211	0.2	137,370	0.1	目的税	19,575	0.0	-	
寄附金	103,587	0.0	-	-	法定目的税	19,575	0.0	-	
繰入金	27,644,932	5.6	-	-	狩猟税	19,575	0.0	-	
繰越金	8,631,692	1.8	-	-	法定外目的税	-	-	-	
諸収入	49,514,315	10.1	19,514	0.0	旧法による税	1,031	0.0	-	
地方債	84,741,365	17.3	-	-	合計	91,041,389	100.0	549,157	
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	37,574,000	7.7	-	-					
歳入合計	490,085,870	100.0	222,258,182	100.0					

区分		平成23年度		平成22年度	
徴収率 (%)	現年	99.1	96.9	99.1	97.0
	計	98.4	93.6	98.1	93.3
	道府県民税 事業税	99.9	99.6	99.9	99.3

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・%）					
目的別歳出の状況（単位 千円・%）					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	1,018,966	0.2	1,208	1,016,462	
総務費	29,529,359	6.1	5,349,944	27,383,006	
民生費	51,018,811	10.6	2,741,531	40,107,689	
衛生費	19,855,834	4.1	6,134,807	8,744,096	
労働費	6,908,352	1.4	2,827	814,425	
農林水産業費	36,868,259	7.6	23,208,317	13,990,578	
商工費	52,462,218	10.9	1,389,129	5,861,623	
土木費	62,325,375	12.9	48,842,317	16,707,378	
警察費	22,857,635	4.7	2,336,236	19,372,618	
消防費	-	-	-	-	
教育費	90,348,981	18.7	3,159,590	69,848,614	
災害復旧費	1,717,174	0.4	-	124,566	
公債費	98,025,821	20.3	-	94,507,097	
諸支出費	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
利子割交付金	474,638	0.1	-	474,638	
配当割交付金	207,371	0.0	-	207,371	
株式等譲渡所得割交付金	50,908	0.0	-	50,908	
地方消費税交付金	7,962,638	1.6	-	7,962,638	
ゴルフ場利用税交付金	200,332	0.0	-	200,332	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	
自動車取得税交付金	830,065	0.2	-	830,065	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	
特別区財政調整交付金	-	-	-	-	
歳出合計	482,662,737	100.0	93,165,906	308,204,104	

性質別歳出の状況（単位 千円・%）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	225,418,731	46.7	199,742,091	183,898,112	70.8
人件費	119,770,992	24.8	99,997,713	97,135,074	37.4
うち職員給	83,700,071	17.3	68,596,699	68,354,556	26.3
扶助費	8,279,559	1.7	5,894,922	5,876,625	2.3
公債費	97,368,180	20.2	93,849,456	80,886,413	31.1
元利償還金	97,350,651	20.2	93,831,927	80,868,884	31.1
内訳	83,249,333	17.2	80,011,710	67,065,060	25.8
うち元金	14,101,318	2.9	13,820,217	13,803,824	5.3
一時借入金利子	17,529	0.0	17,529	17,529	0.0
その他の経費	162,360,926	33.6	87,958,091	59,192,177	22.8
物件費	19,701,838	4.1	13,994,204	12,238,525	4.7
維持補修費	3,098,036	0.6	2,537,181	1,513,654	0.6
補助費等	71,625,438	14.8	61,349,958	44,318,501	17.1
繰出金	3,278,077	0.7	1,890,040	-	-
積立金	12,306,561	2.5	2,972,246	-	-
投資及び出資金	2,372,154	0.5	1,953,900	-	-
貸付金	49,978,822	10.4	3,260,562	1,121,497	0.4
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	94,883,080	19.7	20,503,922	-	-
うち人件費	1,562,252	0.3	1,562,252	-	-
内訳	93,165,906	19.3	20,379,356	-	-
普通建設事業費	60,722,322	12.6	2,843,181	-	-
うち補助	25,954,593	5.4	16,741,854	-	-
うち単独	1,717,174	0.4	124,566	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	482,662,737	100.0	308,204,104	-	-

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

平成23年度 福井県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	494,792	489,374	5,418	3,832	1,292	886,311	
2 公債管理特別会計	111,751	111,751	0	0	94,876		
3 用品等集中管理事業特別会計	352	307	45	45			
4 災害救助基金特別会計	2	2	0	0			
5 母子寡婦福祉資金貸付金	79	75	4	4	2	262	
6 中小企業支援資金貸付金特別会計	4,974	3,862	1,112	0	1	10,476	
7 就農支援資金貸付金特別会計	16	16	0	0	2	110	
8 沿岸漁業改善資金貸付金特別会計	329	2	327	0	0	0	
9 林業改善資金貸付金特別会計	109	10	99	0	0	0	
10 県有林事業特別会計	100	100	0	0	63	985	
11 用地先行取得事業特別会計	1,546	1,545	1	0	530	52	
12 証紙特別会計	3,499	3,082	417	417			
計一般会計等(純計)	617,549	610,126	7,423	4,294		898,196	実質赤字額

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうちの一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 病院事業会計	19,243	19,808	▲565	7,788	3,944	36,236	23,715		法適用企業
2 工業用水道事業会計	686	499	187	1,913		223	0		法適用企業
3 水道用水供給事業会計	2,591	2,281	310	6,995	162	12,336	2,850		法適用企業
4 臨海下水道事業会計	658	566	92	2,462					法適用企業
5 臨海工業用地等造成事業会計	190	163	27	2,455					法適用企業
6 港湾整備事業特別会計	1,877	1,877	0	25	1,323	20,588	20,588		法非適用企業
7 下水道事業特別会計	3,060	2,011	1,049	1,049	445	4,277	4,034		法非適用企業
8 駐車場整備事業特別会計	172	172	0	0	88	1,455	1,408		公営事業
計公営企業会計等				22,687					連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうちの一般会計等繰入見込額	備考
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計一部事務組合等								

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1 若狭湾エネルギー研究センター	▲63	5,781	50	30	0	0	0	0	
2 日下部・グリフス学術・文化交流基金	▲1	214	40	0	0	0	0	0	
3 福井県アジア人材基金	1	2,334	2,315	0	0	0	0	0	
4 福井県町村開発公社	0	10	2	0	0	0	0	0	
5 福井県国際交流協会	▲1	1,637	1,200	0	0	0	0	0	
6 ふくい女性財団	1	509	250	6	0	0	0	0	
7 福井県青少年育成一灯基金	1	420	211	0	0	0	0	0	
8 福井県子力センター	▲12	626	10	7	0	0	0	0	
9 福井県消防協会	▲1	307	100	0	0	0	0	0	
10 福井県腎臓バンク	0	72	30	5	0	0	0	0	
11 認知症高齢者医療介護センター	34	300	50	47	0	0	0	0	
12 福井県生活衛生営業指導センター	0	7	2	20	0	0	0	0	
13 福井県産業廃棄物処理公社	21	2,393	1,053	0	211	0	0	0	
14 ふくい産業支援センター	104	4,732	350	261	15,807	0	455	0	
15 福井県産業会館	11	609	30	0	0	0	0	0	
16 福井県眼鏡産業振興基金協会	0	55	20	0	0	0	0	0	
17 福井県鉄工業振興基金協会	▲5	559	101	0	0	0	0	0	
18 福井県骨材工業振興基金協会	▲2	90	30	0	0	0	0	0	
19 奥越地域地場産業振興センター	▲10	215	5	0	0	0	0	0	
20 福井県労働者福祉基金協会	22	1,331	163	0	0	0	0	0	
21 福井県労働者福祉基金協会	1	273	99	0	0	0	0	0	
22 福井県畜産協会	1	7	31	1	0	0	0	0	
23 福井県畜産経営安定基金協会	0	76	252	1	0	0	0	0	
24 福井県野菜生産価格安定事業協会	▲16	224	43	0	0	0	0	0	
25 ふくい農林水産支援センター	0	1,298	966	948	27,731	0	21,071	21,071	
26 福井県林業従事者確保育成基金	▲6	1,409	1,043	9	47	0	0	0	
27 福井県内水面漁業振興会	1	201	63	0	0	0	0	0	
28 福井県建設技術公社	▲2	782	63	0	0	0	0	0	
29 福井県道路公社	▲37	▲675	648	28	2,126	0	0	1,716	
30 足羽川水源地域対策基金	19	5,212	3,317	0	0	0	0	0	
31 福井埠頭	101	938	16	0	0	0	0	0	
32 福井県下水道公社	0	16	5	0	0	0	0	0	
33 福井県企業公社	4	114	100	0	0	0	0	0	
34 ポーイスカウト福井連盟維持財団	▲1	112	50	0	0	0	0	0	
35 福井県文化振興事業団	4	1,262	735	0	0	0	0	0	
36 福井県暴力追放センター	0	780	502	1	0	0	0	0	
37 福井県防犯協会	1	342	100	0	0	0	0	0	
38 公立大学法人福井県立大学	55	8,289	8,508	2,438	0	0	0	0	
39 敦賀港国際ターミナル	2	116	31	18	0	0	0	0	
計地方公社・第三セクター等				22,584	3,820	45,922	0	21,526	22,787

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

区分	実質公債費比率 (千円・%)				区分	将来負担の状況 (千円・%)			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比		平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
元利償還金	74,458,303	78,176,428	82,924,059	39.4	元利償還金	870,174,622	895,606,611	898,195,480	426.4
減債基金積立不足算定額	-	-	-	-	債務負担行為に基づく支出予定額	3,780,045	2,487,761	1,780,238	0.8
繰上返済	76,667	410,000	1,400,000	0.7	公営企業債等繰入見込額	47,250,051	54,391,621	52,595,658	25.0
公営企業債の元利償還金に対する繰入金	2,951,522	3,297,316	3,494,611	1.7	組合等負担等見込額	-	-	-	-
組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	退職手当負担見込額	139,067,052	136,669,857	136,890,319	65.0
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	1,374,561	1,169,274	793,640	0.4	設立法人等の負債額等負担見込額	25,233,991	24,079,608	22,858,360	10.9
一時借入金の利子	18,757	32,674	17,529	0.0	連結実質赤字額	-	-	-	-
合計	(A) 78,879,810	83,085,692	88,629,839		組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-
内訳					合計	(E) 1,085,505,761	1,113,235,458	1,112,320,055	
PFI事業に係るもの	-	-	-	-	充当可能財源等	41,678,956	63,167,523	61,920,885	29.4
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-	充当可能特定繰入	18,818,571	17,750,588	25,177,479	12.0
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	907,786	809,605	655,244	0.3	基準財政需要額算入見込額	551,692,521	582,697,317	594,071,453	282.0
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-	合計	(F) 612,190,048	663,615,428	681,169,817	
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-	将来負担比率((E)-(F))/((C)-(D))×100	232.6	210.2	204.6	
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-					
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-					
その他上記に準ずるもの	370,882	274,208	52,279	0.0					
利子補給に係るもの	95,893	85,461	86,117	0.0					
特定財源の額	(B) 3,155,217	1,717,169	3,518,724		健全化判断比率	平成23年度	早期健全化基準	財政再生基準	
標準財政規模	(C) 246,405,295	257,302,596	255,947,070		実質赤字比率	-	3.75	5.00	
算入公債費等の額	(D) 42,933,450	43,460,657	45,311,264		連結実質赤字比率	-	8.75	15.00	
実質公債費比率	(C)-(D)	203,471,845	213,841,939	210,635,806	実質公債費比率	17.5	25.0	35.0	
(単年度)		16.1	17.7	18.9	将来負担比率	204.6	400.0		
(3ヵ年平均)		13.9	15.4	17.5					

将来負担の状況

区分	将来負担の状況 (千円・%)				内訳	将来負担比率 (千円・%)			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比		平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
元利償還金	870,174,622	895,606,611	898,195,480	426.4	PFI事業に係るもの	-	-	-	-
債務負担行為に基づく支出予定額	3,780,045	2,487,761	1,780,238	0.8	いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
公営企業債等繰入見込額	47,250,051	54,391,621	52,595,658	25.0	国営土地改良事業に係るもの	3,220,730	2,411,125	1,755,881	0.8
組合等負担等見込額	-	-	-	-	森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
退職手当負担見込額	139,067,052	136,669,857	136,890,319	65.0	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
設立法人等の負債額等負担見込額	25,233,991	24,079,608	22,858,360	10.9	依頼土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-
連結実質赤字額	-	-	-	-	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
合計	(E) 1,085,505,761	1,113,235,458	1,112,320,055		引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
充当可能財源等	41,678,956	63,167,523	61,920,885	29.4	その他上記に準ずるもの	559,315	76,636	24,357	0.0
充当可能特定繰入	18,818,571	17,750,588	25,177,479	12.0					
基準財政需要額算入見込額	551,692,521	582,697,317	594,071,453	282.0	病院事業会計	24,800,852	24,513,092	23,715,022	11.3
合計	(F) 612,190,048	663,615,428	681,169,817		港湾整備事業特別会計	12,958,816	21,112,074	20,588,471	9.8
将来負担比率((E)-(F))/((C)-(D))×100	232.6	210.2	204.6		下水道事業特別会計	5,394,404	4,392,514	4,034,120	1.9
					水道用水供給事業会計	2,949,461	3,029,553	2,849,636	1.4
					その他の会計	-	-	-	-
					公社・三セク等				
					地方道路公社に係る将来負担額	1,804,797	1,836,809	1,716,322	0.8
					土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-
					その他第三セクター等に係る将来負担額	23,429,194	22,242,799	21,142,038	10.0

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

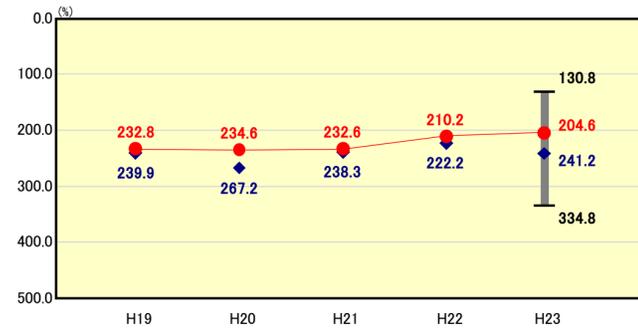
人口	803,180人	(H24.3.31現在)	実質赤字比率	-%
面積	4,189.88	km ²	連結実質赤字比率	-%
歳入総額	490,085,870	千円	実質公債費比率	17.5%
歳出総額	482,662,737	千円	将来負担比率	204.6%
実質収支	4,294,295	千円	グループ	H19 C H20 C H21 C
標準財政規模	255,947,070	千円	(年度毎)	H22 C H23 D
地方債現在高	895,606,182	千円		

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。



将来負担の状況

将来負担比率 [204.6%]

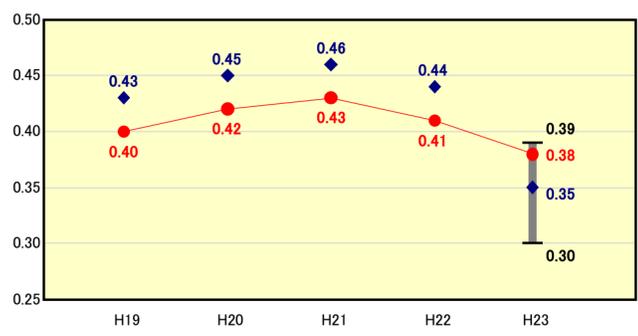


グループ内順位 7/12 都道府県平均 217.5

将来負担比率の分析欄
 前年度と比較して、5.6ポイント改善している。これは、分子となる将来負担額から充当可能財源を差し引いた数値のうち、将来負担額については前年度と比較して微減であったが、病院や港湾等の公営企業債等繰入見込額の減少等が主な要因である。また、充当可能財源等については、公債費の増加により基準財政需要額算入見込額が増加したことから、前年度よりも増加している。一方、分母となる標準財政規模については、臨時財政対策債の発行可能額の減等により前年度よりも減少しているが、分子と比較して減少幅が小さいことから、結果として将来負担比率は前年度より減少している。今後とも将来への負担を少しでも軽減するよう、新規事業の実施等について総点検を図り、財政の健全化に努めていく。

財政力

財政力指数 [0.38]

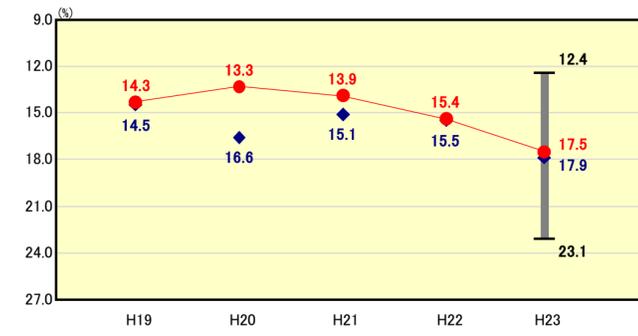


グループ内順位 3/12 都道府県平均 0.47

財政力指数の分析欄
 人口減少や長引く景気低迷の影響などが主な要因となり、近年悪化傾向にある。これまでも、出先機関の再編や職員数の削減を実施してきたが、今後も平成23年7月に策定した「第三次行財政改革実行プラン」に基づき、アウトソーシングの活用や指定管理者制度の導入等による職員数の適正化(一般行政部門の職員数について、23年度から5年間で3%削減)や公共事業の重点化等により、歳出の削減を実施するとともに、地方税の徴収率向上や県有財産の有効活用等により歳入確保に努めていく。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [17.5%]

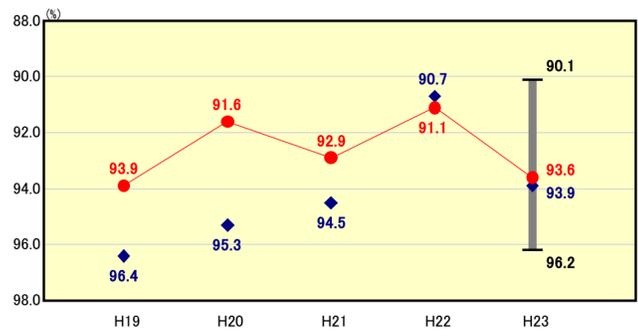


グループ内順位 10/12 都道府県平均 13.9

実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率は、前年度に比べ、2.1ポイント悪化している。主な要因としては、平成以降に実施した経済対策等による公共事業の増加に伴う県債発行額の増加や臨時財政対策債発行可能額の減少等が挙げられる。現在、将来の公債費を抑制するため、財政調整のための基金を活用した県債の繰上償還を実施するとともに、公共事業の重点化等により、県債の新規発行の抑制を図り、財政の健全化に努めていく。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [93.6%]

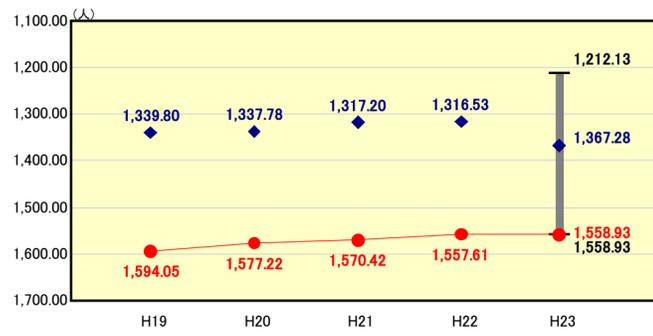


グループ内順位 7/12 都道府県平均 94.9

経常収支比率の分析欄
 前年度に比べて、2.5ポイント悪化している。扶助費の支出や臨時財政対策債の償還等の本格化により公債費が増加傾向にあることが主な要因であり、財政構造の硬直化が進んでいることから、今後「第三次行財政改革実行プラン」に基づき、公共事業の重点化等により、新規県債発行を抑制するとともに、アウトソーシングの活用や指定管理者制度導入等による職員数の適正化等を引き続き推進することにより人件費の抑制を図り、義務的経費の削減に努めていく。

定員管理の状況

人口10万人当たり職員数 [1,558.93人]

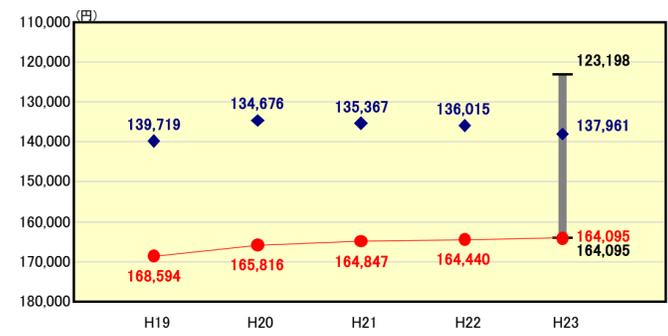


グループ内順位 12/12 都道府県平均 1,131.86

人口10万人当たり職員数の分析欄
 本県は人口が少ないことから、人口10万人当たりで比較すると他団体より高くなる傾向にあるが、積極的な行財政改革の実施により、平成17年度から平成23年度までに、全職員数の6.1%の削減を実施している。また、一般行政部門の職員数は同期間に11%削減し、全国的に見ても最小規模となっている。なお、平成23年4月から平成28年4月までの5年間に於いても、3%の更なる削減目標を掲げており、引き続き適正な職員数の定数管理に努めていく。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [164,095円]

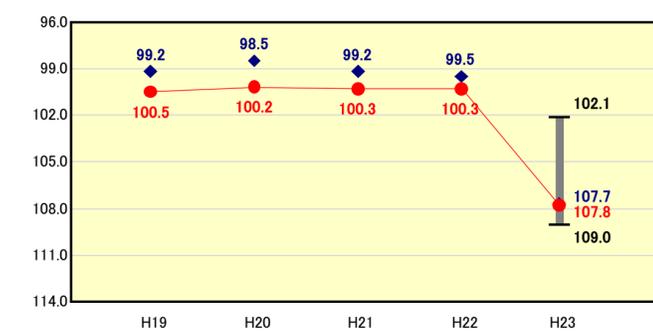


グループ内順位 12/12 都道府県平均 119,607

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 本県は人口が少ないことから、人口1人当たりで比較すると他団体より高くなる傾向にあるが、これまで出先機関の再編や職員数の削減等の行財政改革を実施してきたことにより、人口1当たりの人件費・物件費は減少傾向にある。引き続き、指定管理者制度の導入や出先機関の再編等により職員数の適正化を図るとともに、全庁一括して物品を契約するなど、庶務業務の効率化や経費削減に努める。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [107.8]



グループ内順位 5/12 都道府県平均 107.5

ラスパイレス指数の分析欄
 国家公務員の時限的な給与改定特例法による措置の影響により、前年度比+7.5ポイントと大きく増加しているが、当該要因を除いた場合は、99.6と過去10年間に於ける最高値(平成14年4月1日現在の102.8)を3.2ポイント下回っている。本県においては、給料表の水準を平成18年度から5年間で平均4.8%引き下げたほか、新たな人事評価制度の導入により、職責や勤務実績に応じた給与制度への転換を図るなど、積極的に給与構造改革を実施している。引き続き、民間企業の状況や国・他県の動向を踏まえ、適正な給与水準を維持していく。

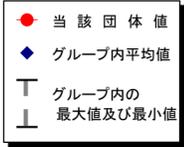
(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

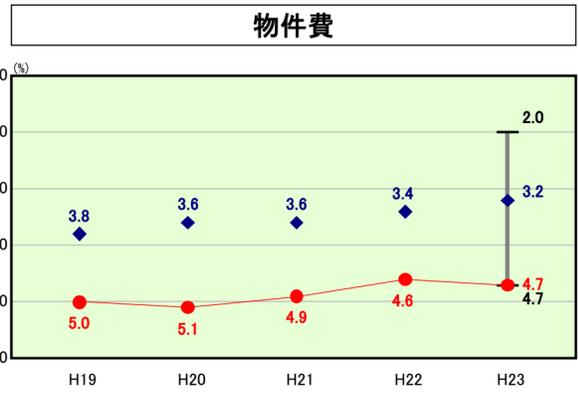
福井県

経常収支比率の分析

人口	803,180 人 (H24.3.31現在)	実質赤字比率	- %
面積	4,189.88 km ²	連結実質赤字比率	- %
歳入総額	490,085,870 千円	実質公債費比率	17.5 %
歳出総額	482,662,737 千円	将来負担比率	204.6 %
実質収支	4,294,295 千円	グループ H19 C	H20 C
標準財政規模	255,947,070 千円	(年度毎)	H22 C H23 D
地方債現在高	895,606,182 千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]



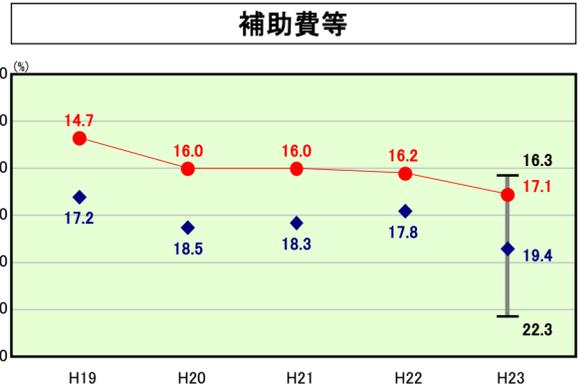
物件費の分析欄

物件費に係る経常収支比率は、前年度より0.1ポイント増加し、類似団体の平均および都道府県平均より高い水準で推移している。これは、本県がアウトソーシングの推進や指定管理者制度の導入について積極的に取り組んでいることが主な要因である。今後も、指定管理者制度の更なる推進に取り組むとともに、全庁で一括契約する物品等の拡大等により歳出抑制を図っていく。



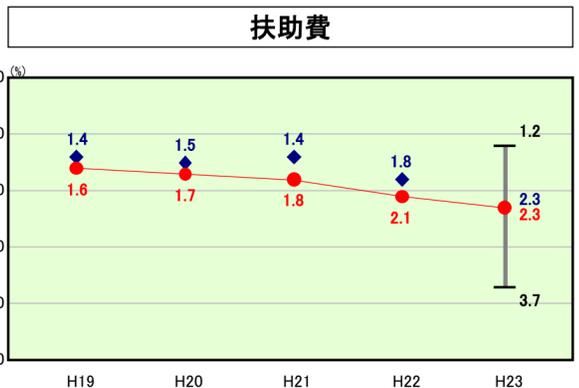
人件費の分析欄

人件費に係る経常収支比率は、前年度から0.3ポイント減少し、5年連続で改善している。これは、平成20年2月に策定した新行財政改革実行プランに基づき、適正な定員管理、給料表の水準の引下げやアウトソーシングを進めてきた効果が表れたことが主な要因である。引き続き、職員数の適正化や手当の見直しなど歳出の削減に努めていく。



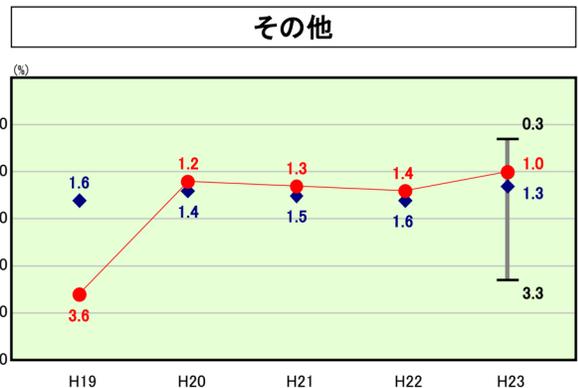
補助費等の分析欄

補助費等に係る経常収支比率は、前年度より0.9ポイント増加し、近年増加傾向が続いている。これは高齢化の進展に伴う医療・介護給付費の県費負担金の増加が主な要因として挙げられる。医療費適正化計画の着実な実行や介護予防の推進等により、医療費や介護給付費等の社会保障費の伸びを抑制していく。



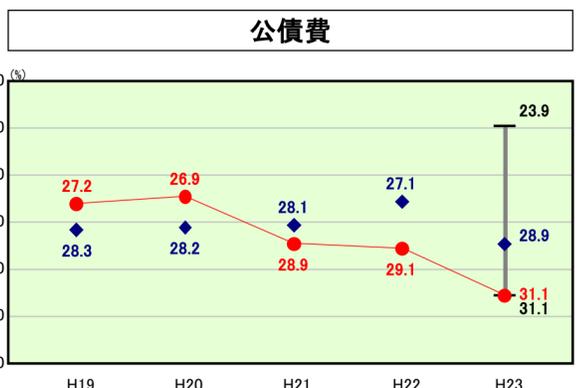
扶助費の分析欄

扶助費に係る経常収支比率は、前年度から0.2ポイント増加し、近年悪化傾向にある。これは、事業所数の増加等に伴う訓練等給付費県費負担金の増加や診療実績の増加による精神通院医療費の増加が主な要因である。今後は、医療費適正化計画の着実な実行や介護予防の推進等により、医療費や介護給付費等の社会保障費の抑制に努めていく。



その他の分析欄

維持補修費に臨時交付金を充当したこと等により、0.4ポイント減少となっている。



公債費の分析欄

公債費に係る経常収支比率は、前年度から2.0ポイント増加している。これは、平成以降に実施した経済雇用対策に係る公共事業や臨時財政対策債の償還額の増加が主な要因であり、今後も歳出の見直しによる新規の県債発行の抑制や長期債発行の拡大等を通じて、公債費の抑制、平準化に努めていく。



公債費以外の分析欄

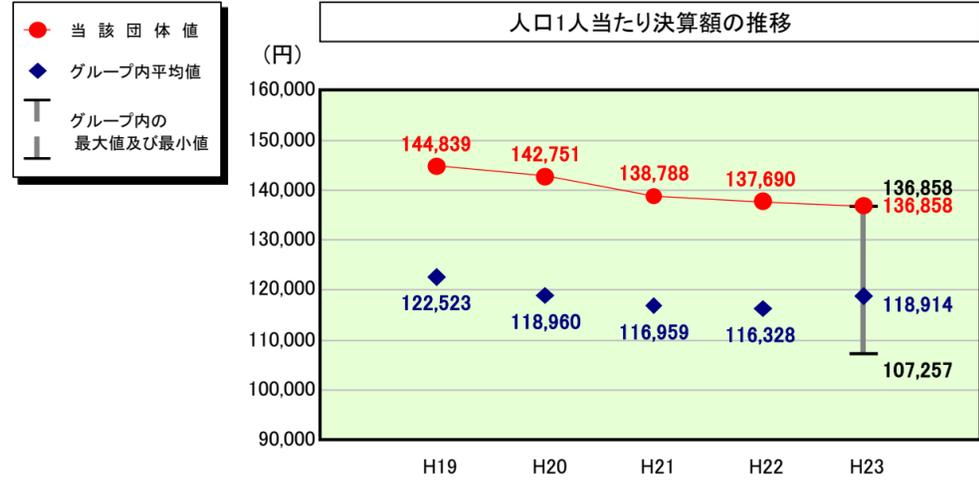
公債費を除く経常収支比率は、前年度より0.5ポイントの増加となっている。高齢化に伴う扶助費や補助費等が増加したことが主な要因である。社会保障経費の増加は、全国共通の傾向である一方で、本県は新行財政改革実行プランに基づき、適正な定員管理、給料表の水準引下げやアウトソーシングを推進しており、全国平均を大きく下回っている。今後も引き続き、職員数の適正化や手当の見直し等、歳出の抑制に努めていく。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

福井県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



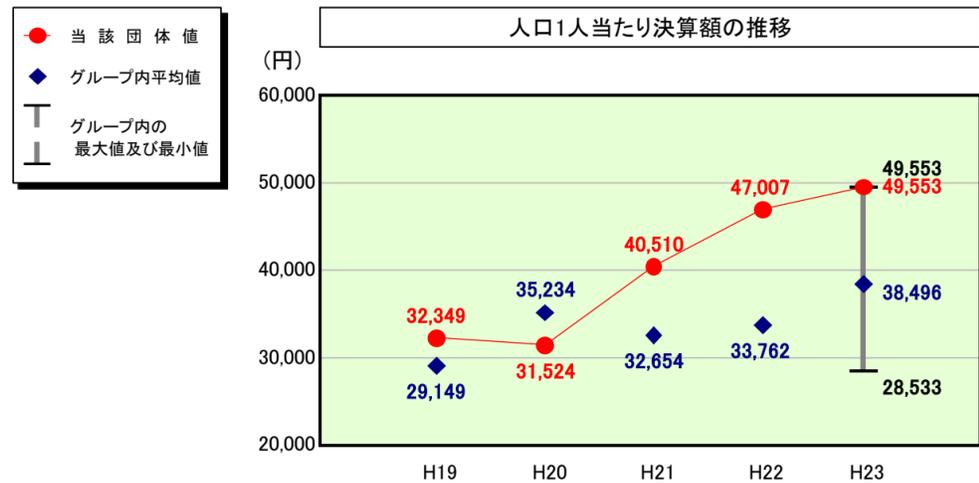
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	119,770,992	149,121	127,954	16.5
賃金(物件費)	796,119	991	512	93.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	127,923	159	498	▲68.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	-	-	0	-
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	1,562,252	1,945	1,865	4.3
▲退職金	▲12,335,515	▲15,358	▲11,915	28.9
合計	109,921,771	136,858	118,914	15.1

参考

	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	1,558.93	1,367.28	191.65
ラスパイレス指数	107.8	107.7	0.1

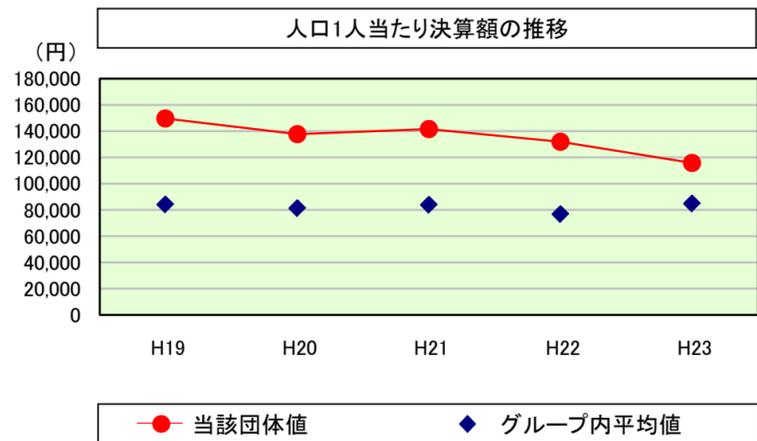
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	82,924,059	103,245	71,520	44.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	2,705	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	1,400,000	1,743	8,828	▲80.3
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	3,494,611	4,351	1,613	169.7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	133	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	793,640	988	2,853	▲65.4
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	17,529	22	18	22.2
▲特定財源の額	▲3,518,724	▲4,381	▲2,804	56.2
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲45,311,264	▲56,415	▲46,370	21.7
合計	39,799,851	49,553	38,496	28.7

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

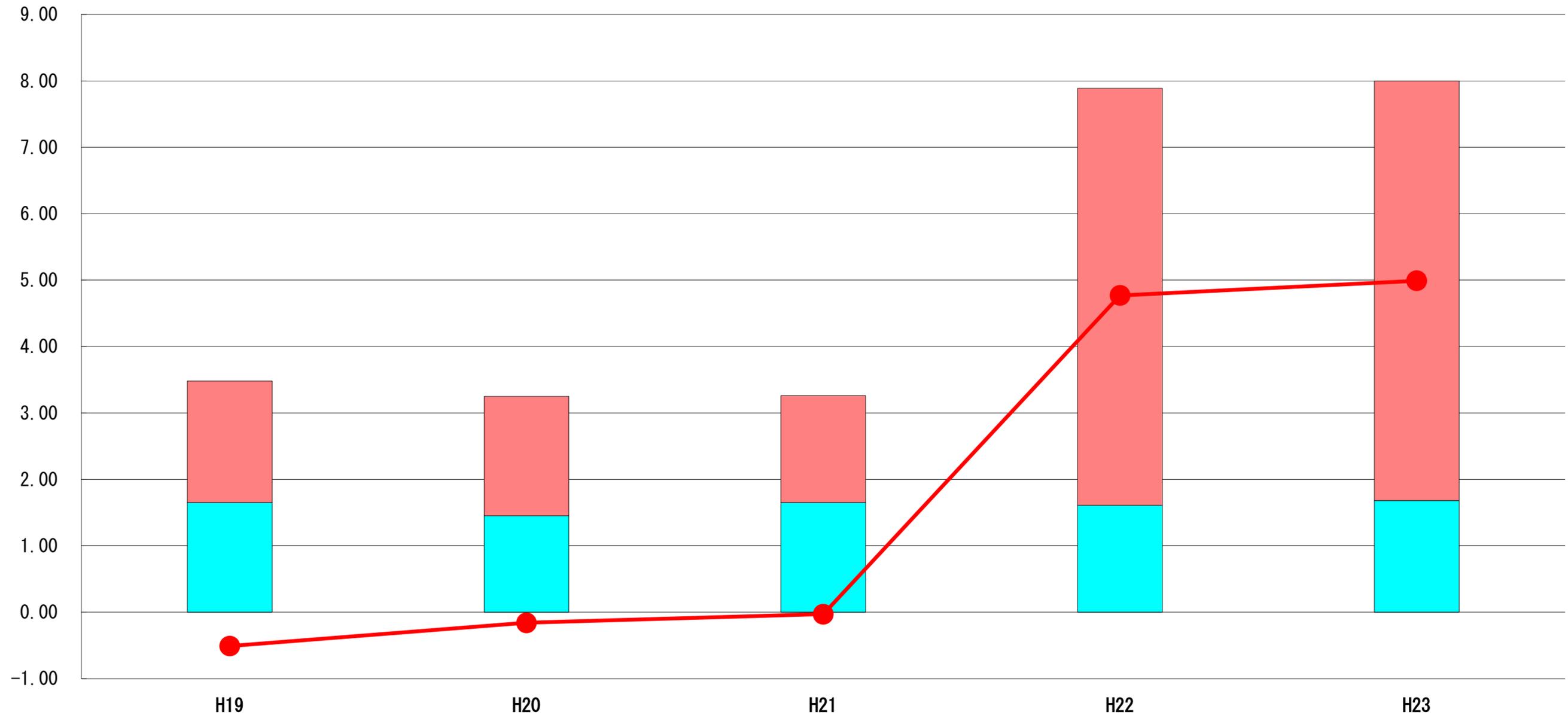
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	グループ内平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H19	121,987,366	149,615	▲8.9	84,220	▲20.1	11.2
うち単独分	43,145,849	52,917	▲18.6	30,061	▲14.2	▲4.4
H20	112,066,015	137,937	▲7.8	81,474	▲3.3	▲4.5
うち単独分	42,458,383	52,260	▲1.2	26,088	▲13.2	12.0
H21	114,572,809	141,541	2.6	84,024	3.1	▲0.5
うち単独分	46,829,724	57,853	10.7	32,163	23.3	▲12.6
H22	106,389,981	131,927	▲6.8	76,760	▲8.6	1.8
うち単独分	43,715,638	54,209	▲6.3	32,105	▲0.2	▲6.1
H23	93,165,906	115,996	▲12.1	84,976	10.7	▲22.8
うち単独分	25,954,593	32,315	▲40.4	26,480	▲17.5	▲22.9
過去5年間平均	109,636,415	135,403	▲6.6	82,291	▲3.6	▲3.0
うち単独分	40,420,837	49,911	▲11.2	29,379	▲4.4	▲6.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）

平成23年度

福井県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H19	H20	H21	H22	H23
 財政調整基金残高		1.83	1.80	1.61	6.28	6.32
 実質収支額		1.65	1.45	1.65	1.61	1.68
 実質単年度収支		▲ 0.51	▲ 0.16	▲ 0.03	4.77	4.99

分析欄

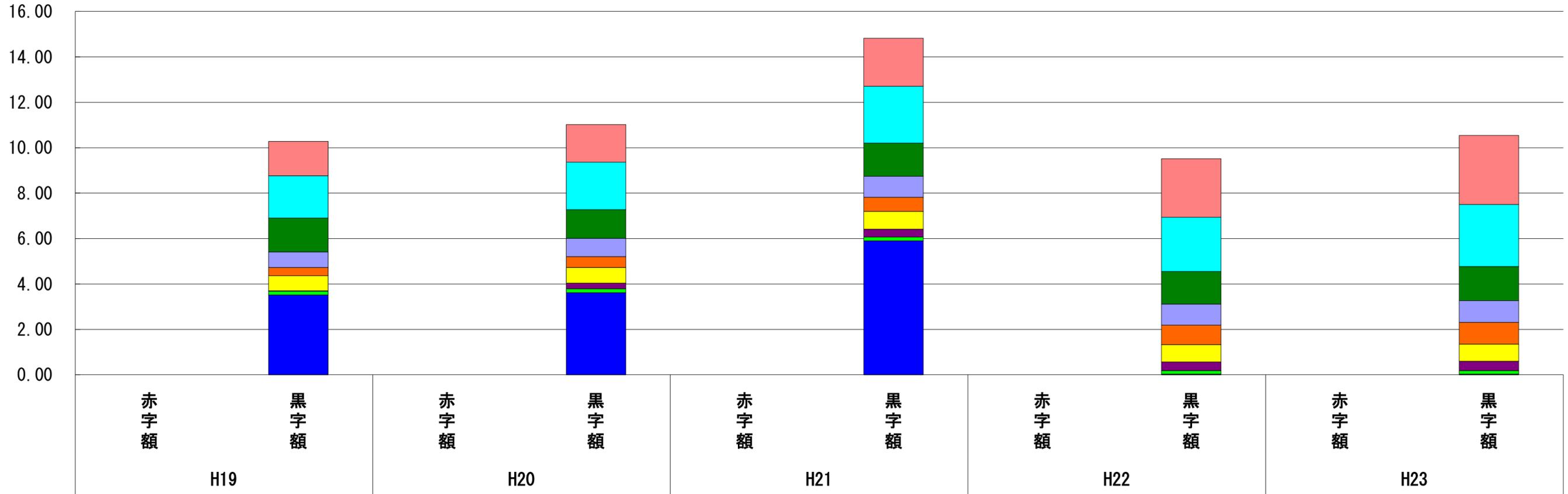
人事委員会勧告による給与改定や新行財政改革実行プラン（平成19年度～22年度）に基づき職員数の削減を進めた結果、人件費が大幅に減少したほか、景気が回復基調に伴い法人二税が前年度よりも増額となり、23年度末で335億円の財政調整基金残高を確保した。
23年度から25年度の3か年にかけては、将来の公債費を抑制するため、財政調整のための基金を活用した県債の繰上償還を実施するとともに、公共事業の重点化等により県債の新規発行の抑制を図り、財政の健全化に努める。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

平成23年度

福井県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H19	H20	H21	H22	H23
病院事業会計		1.51	1.66	2.11	2.58	3.04
水道用水供給事業会計		1.87	2.09	2.51	2.39	2.73
一般会計		1.49	1.26	1.46	1.43	1.50
臨海下水道事業会計		0.68	0.80	0.92	0.93	0.96
臨海工業用地等造成事業会計		0.36	0.48	0.62	0.86	0.96
工業用水道事業会計		0.67	0.69	0.79	0.76	0.75
下水道事業特別会計		0.02	0.25	0.34	0.38	0.41
証紙特別会計		0.16	0.17	0.17	0.16	0.16
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		3.52	3.62	5.90	0.03	0.03

分析欄

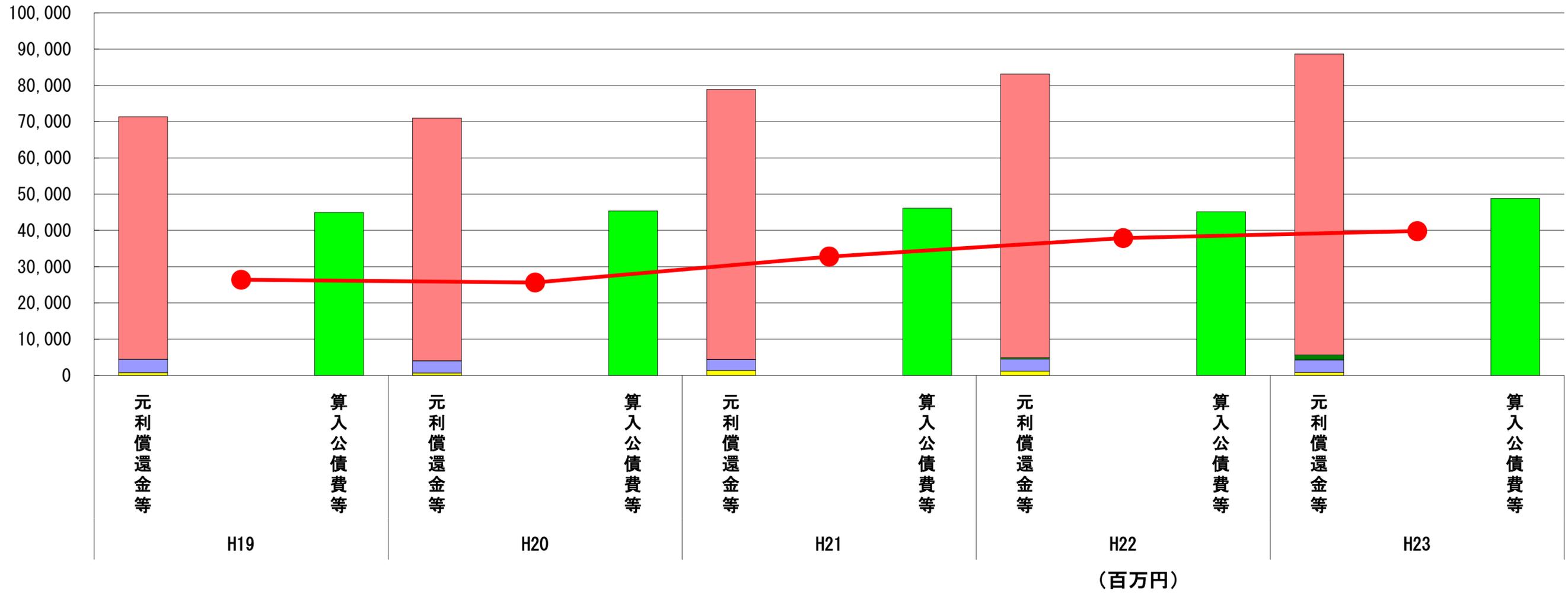
本県において、実質収支が赤字となっている会計はない。特に、病院事業会計の実質収支については、収入増加・確保対策として、病床利用率の向上や平均在院日数の短縮等に努めたことにより収益構造が改善していることから、黒字幅が拡大傾向となっている。なお、行財政改革の一環として平成21年度に電気事業を民間に売却していることから、平成22年度以降のその他会計の黒字幅は大幅に減少している。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

平成23年度

福井県

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等(A)	元利償還金		66,855	66,872	74,458	78,176	82,924
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		43	77	77	410	1,400
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		3,676	3,359	2,952	3,297	3,495
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		714	608	1,375	1,169	794
	一時借入金の利子		34	58	19	33	18
算入公債費等(B)	算入公債費等		44,948	45,362	46,088	45,177	48,830
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		26,374	25,612	32,793	37,908	39,801

分析欄

実質公債費比率増加の主たる要因は、元利償還金の増加である。これは、平成以降、国の経済対策に呼応する形で公共事業を実施したことによる起債残高の増加などが主な要因である。
また、平成21年度以降の市場公募債の発行に伴い、平成22年度以降は満期一括償還地方債に係る年度割相当額が増加している。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

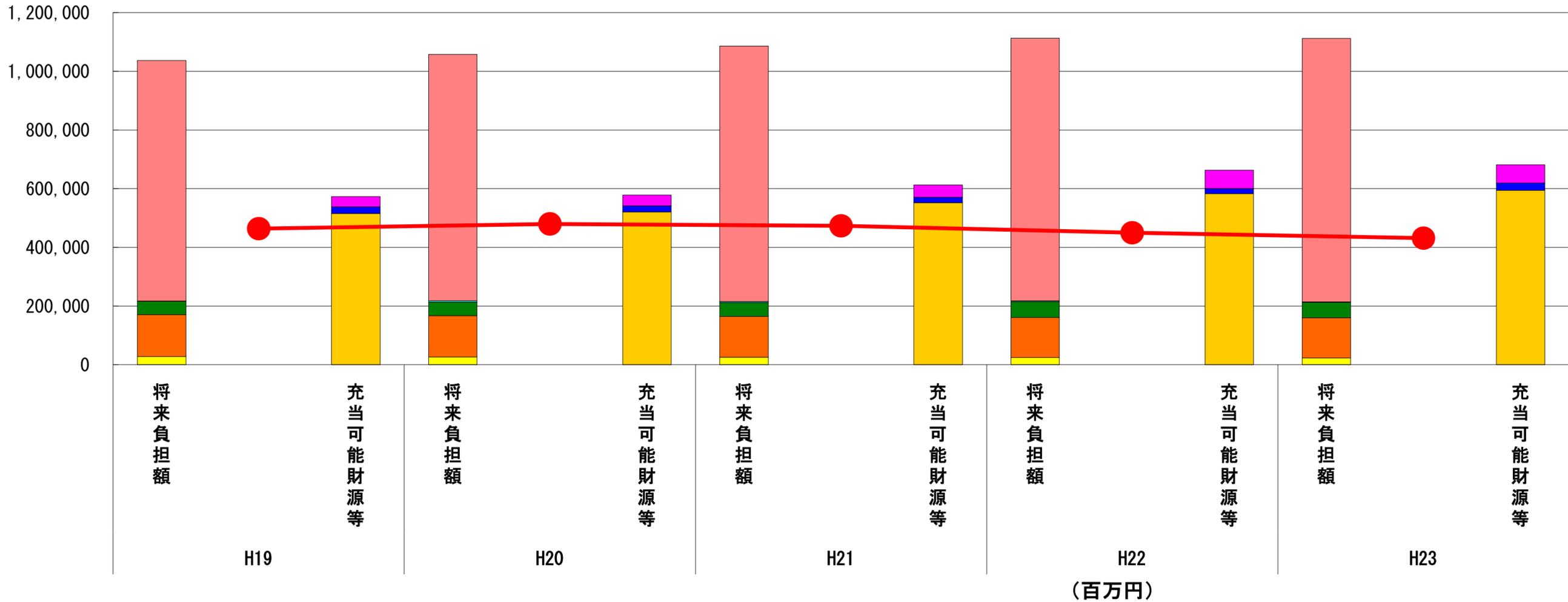
※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成23年度

福井県

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		819,419	840,098	870,175	895,607	898,195
	債務負担行為に基づく支出予定額		1,348	4,983	3,780	2,488	1,780
	公営企業債等繰入見込額		45,615	46,263	47,250	54,392	52,596
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		142,711	140,168	139,067	136,670	136,890
	設立法人等の負債額等負担見込額		27,563	26,602	25,234	24,080	22,858
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		34,380	36,699	41,679	63,168	61,921
	充当可能特定歳入		22,800	21,260	18,819	17,751	25,177
	基準財政需要額算入見込額		515,555	520,236	551,693	582,697	594,071
(A) - (B)	将来負担比率の分子		463,922	479,920	473,316	449,620	431,150

分析欄

将来負担額は昨年度に比べて微減である。具体的には、臨時財政対策債の発行等により地方債の現在高が増加している一方、病院や港湾等の公営企業債等繰入見込額が大幅に減少しているほか、第3セクターの損失補償債務残高の減により負債額等負担見込額について大きく減少していることが主な要因である。

充当可能財源等については、昨年度よりも増加している。主な要因としては、公債費の増加に伴う基準財政需要額算入見込額の増加が挙げられる。

以上より、将来負担額から充当可能財源等を差し引いた将来負担比率の分子は前年度よりも減少している。